

# 1 新篠津中学校【教育目標】

先人(さきびと)の熱いこころを受け継いで

ふるさとに生きる力を育む

【真理】を探究する人(知) 学ぶ過程を大切にしよう

【友情】を大切にすること(情) 自ら良き友となろう

【創造】し実践すること(意) より高きを求め努力しよう

【健康】で明朗な人(体) 強くたくましく鍛えよう

昭和42年4月6日制定

平成30年4月1日改訂(前文追加)

## (1) 目標の設定の経緯とねがい

①経緯 新篠津の教育目標は、昭和42年に村内3校の中学校を統合し、新たに新篠津中学校が開校された際に、ふるさと新篠津を基盤に知・情・意・体の調和のとれた心豊かな人間性を育むことを目指し制定された。その後、平成30年に地域の唯一の中学校として、将来の新篠津村を支える人材の育成を目指し、地域や家庭(保護者)との関わり(連携)を大切にしながら、子どもたちのために質の高い教育活動を実践する観点から前文を追加した。

②ねがい 明治16年(1883年)新篠津の地に開墾の鋤が入れられ、先人たちが幾多の様々な困難を乗り越え豊かな新篠津村を創り上げてきた。一人ひとりの生徒がそんな先人(さきびと)の熱いこころを受け継ぎ、知・情・意・体の調和のとれた心豊かなで、「ふるさとを愛し」、「ふるさとを誇り」、「ふるさとを支える」人になってほしいとの願いが込められている。

## (2) 具体的なねがい

資質・具体	ねがい・教育実践
【知】 真理探究する人	高い知性を身につけ、科学の精神を尊重し、科学的な態度と能力を兼ね備えた生徒になってほしい。そのために新中では、生徒が「学ぶ過程を大切にすること」教育を実践する。
【情】 友情を大切にすること	自他の幸福と向上を考え、協力して行動する態度と能力を持った生徒になってほしい。そのために新中では、生徒が「自らよき友になろうとする」教育を実践する。
【意】 創造し実践すること	豊かな情操と創造力を身につけ、何事にも積極的に行動する生徒になってほしい。そのために、新中では、生徒が「より高きを求め努力をする」教育を実践する。
【体】 健康で明朗な人	強健で不屈な心身をつくり、自主自律の精神と誠実な態度をもった生徒になってほしい。そのために、新中では、生徒が「生徒を自ら強くたくましく鍛えようとする」教育を実践する。

## 2 めざす生徒像・学校課題

伝え合い、自分たちの考えや思いを高め・深め、行動できる  
生徒の育成  
～ 伝え、高め・深め、行動～

- ・**高め**とは、互いに切磋琢磨の中で、「生きる力」(学力、心力、体力など)を高めあうことを意味する。
- ・**深め**とは、相手を深く思いやるなど、相手や物事について深く考えることができることを意味する。

これからの時代、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構築するなど新たな価値につなげていくことや、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。  
(中学校学習指導要領解説【総則編】より)

## 3 小中連携

### (1) 基本姿勢

9年間で身に付けた力の共有  
～教職員全員が義務教育に責任を持つ～

### (2) 小中が共通の視点で目指す子ども

自ら学ぶ子、あいさつ・返事ができる子